

平成 30 年度 行政対応特別研究評価報告

課 題 名	障害者の農業分野での就労促進に関する研究
研 究 実 施 期 間	平成 30 年度
政 策 研 究 の 概 要	農福連携の取組自体に対する調査はある程度進んできたものの、農福連携が進展することにより地域内あるいは地域間で構築されるネットワークについての調査は十分に行われていない。このため、平成 29 年度から、こうした農福連携を軸としたネットワークについて、それらを構築している様々な主体に対する調査を行い、農福連携による農村地域への経済的、社会的な影響を明らかにする研究を実施しているところである。 本年度は引き続きネットワークを形成している事例の調査を行うとともに、障害者福祉施設の全国団体が実施するアンケート調査の分析や、ドイツを中心に解題の事例の調査・分析も行い、農福連携によるネットワーク構築の重要性を明らかにするとともに、ネットワーク間での影響の違いを踏まえて、効果的なネットワーク構築に向けた取り組み方、求められる支援についてとりまとめた。
評 価 結 果 ○ 評価会議名及び開催日 行政対応特別研究「OECD が開発した SAPIM (Stylized Agri-environmental Policy Impact Model) を用いた農業政策が環境に与える影響の分析」 「障害者の農業分野での就労促進に関する研究」外部評価委員会 平成 31 年 3 月 22 日開催 ○ 評価委員名 安藤 光義 委員	【評価項目ごとの評価】 () 内は 3 名の委員の投票数を示す。 ○ 社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある (1) A:大きな意義がある (2) ○ 政策の企画・立案への貢献 S:非常に大きな貢献が見込める (1) A:大きな貢献が見込める (2) ○ 学術面からみた研究成果の評価 A:学術的に高く評価できる (3) ○ 研究計画・研究資源・実施体制の妥当性 A:妥当である (3)

(東京大学大学院農学生命科学研究科・教授) 川手 督也 委員 (日本大学生物資源科学部・教授) 茂野 隆一 委員 (筑波大学生命環境系・教授) ○評価基準 ・社会的ニーズへの対応 S.非常に大きな意義がある A.大きな意義がある B.意義がある C.意義が小さい D.意義は見出しがたい ・政策の企画・立案への貢献 S.非常に大きな貢献が見込める A.大きな貢献が見込める B.貢献が見込める C.貢献は小さい D.貢献は見込みがたい ・学術面からみた研究成果の評価 S.学術的に非常に高く評価できる A.学術的に高く評価できる B.学術的に評価できる C.学術的な評価はやや低い D.学術的な評価は低い ・研究計画・研究資源・実施体制の妥当性 S.非常に良い A.妥当である B.概ね妥当である C.やや妥当でない D.妥当ではない	○ 研究目標の達成度 A:達成度は高い(3) 【総合評価】 () 内は3名の委員の投票数を示す。 1.目標を上回った(1) 2:目標を達成した(2) 【評価委員からの主な意見】 ○ビジネスモデルとして確立しつつあるからこそ、こうした活動に取り組んでいる方々の理念の重要性に注意を喚起する必要があるかもしれない。 ○働いている障害者の方々のライフコースを視野に入れた研究までできれば理想。 ○今年度の調査において、「広域でネットワークを構築している事例」、「農業サイドからの取組事例」が加わったことにより、これまでの研究蓄積がより厚みを増したと考える。本研究によって取り上げられた様々な取組事例は、農福連携の推進にとって非常に大きな貢献をなすものとして高く評価できる。また、様々な媒体を活用し、積極的に研究成果を外部に公表している。これらの広報活動を通じて、現場サイドにも新たな連携が生じているとのことであり、社会的な意義も大きい。 ○農福連携は、常に新たな課題、取組が生じている分野であるため、継続的な実態調査を期待したい。失敗事例を取り上げるといった新たな視点を取り入れてみることも有意義であろう。また、これまでの研究を書籍として取りまとめてみることも考えてみてはどうか。 ○今後は、第一に、丁寧な事例調査・分析に基づく理論的フレームワークに関する研究の深化が期待される。第二に、障害者の報酬の改善と6次産業化やネットワーク化との関連についての一般化や一定の定式化を行うことが期待される。第三に、新設されたノウフク JAS の推進や活用に関する研究に着手することが期待される。第四に、本年度に実施した国際シンポなどをさらに発展させて、ドイツや韓国などとの国際比較研究を進めることが期待される。 ○現在果たしているプラットフォームやコンソーシアムとしての中核的役割を引き続き果たしていくことが強く望まれる。
---	---

・ 研究目標の達成度 S.達成度は非常に高い A.達成度は高い B.概ね達成している C.達成度はやや低い D.達成度は低い ・ 総合評価 1.目標を上回った 2.目標を達成した 3.目標を下回った 4.目標を大きく下回った	
今 後 の 対 応 方 針	○行政対応特別研究「農福連携の効果検証に関する研究」を実施する。具体的には「農福連携の効果の定量化手法に関する研究」として、体力の増強、工賃の向上、職業意欲・技能の向上、生活リズムの回復・維持等、障害者が農業に従事することによる身体的、精神的な影響や、他職種と比較した農業による効果の違いを定量化する手法について、先行研究の整理、アンケート調査、現地調査等を基に確立を図る。 ○また、「農福連携の取組の横展開、面的な拡大に関する研究」として、農福連携の取組手法を類型化し、それぞれの手法のメリット、課題等を比較分析することで、同様の取組を地域ごとに展開する手法や、異なる取組を有機的に連携させる手法等、農福連携の効果的な展開・拡大方策を検討する。 ○加えて、閉ざされたコミュニティが農業や農業関連部門に取り組むことで開かれたコミュニティになっていく点が、ドイツと日本で共通していることを示すため、それぞれで代表的な事例を取り上げて比較分析を行う。 ○さらに、今後考えられる新たな展開の可能性について検証するため、高齢者福祉と農業、障害児教育と農福との連携についても現地調査により情報収集・整理を行い、併せて分析を行う。